

交通計画課長



副課長



鉄道事業室長



室員



復命書

令和3年6月24日

千葉県知事 熊谷俊人 様

所 属 総合企画部交通計画課

職氏名 副主査 秋葉 琢人



私は、命により旅行したところ、その概要は下記のとおりでした。
以上復命します。

記

- 1 用 務 北総鉄道株式会社第49期定時株主総会
- 2 旅 行 先 鎌ヶ谷市（北総鉄道株式会社本社1階会議室）
- 3 旅行期間 令和3年6月23日（水）
- 4 概 要 別添のとおり

1 総会成立の報告

- ・定款の定めにより、室谷社長が議長を務める。
- ・有効議決権数は必要数に達しており、総会が定足数を満たす旨の報告。

○出席株主数：14名（委任状提出者も含む）

＜株主総数 15名＞

○有効議決株式数：49,780千株

＜発行済株式総数 49,800千株＞

2 監査報告

入江常勤監査役による監査報告。監査の結果、指摘する事項はなし。また、独立監査人によると、全ての重要な点において適正に表示していると報告を受けている。その監査の方法及び結果は相当であり、指摘すべき事項はない。

本日の株主総会に提出している議案及び書類については、いずれも法令及び定款に適合しており、指摘すべき事項はない。

3 事業報告

室谷社長より、第49期（2020年4月1日～2021年3月31日）の事業報告、貸借対照表及び損益計算書等について説明。

4 質疑応答

印西市・板倉市長

市長に就任して以来、貴社の株主総会にはできるだけ参加し、市民の思いを代弁してきた。今年には北総鉄道会社設立から50年目、新鎌ヶ谷～高砂間の全線開通により、千葉ニュータウン中央駅から都内乗り入れが実現して30周年の節目の年である。都内乗り入れの影響がとて大きく、千葉ニュータウンは、想像をはるかに超えて発展した。日頃の安心・安全の鉄道運行について、感謝を申し上げる。

また、新型コロナウイルスの影響があるにもかかわらず、令和2年度決算にて21期連続の黒字を達成し、有利子負債と累積損失は着実に減っていることに安心した。これも貴社の経営努力のたまものである。

印西市においては印西牧の原駅を中心とする住宅開発や沿線の企業立地が堅調に推移しており、より開発が進んでいくものと確信している。

このような中で市民の思いは、これまでも何度も言っているが、北総線の運賃値下げである。市で実施している印西市市民満足度・重要度調査では、公共交通の充実の分野が最も低く、一方で重要度が高い分野になっている。この理由の大部分は北総線の運賃が高すぎるということであり、老若男女問わず、北総鉄道は便利だが高いという認識である。

私も市長に就任以来、どうしたら高運賃を是正できるか、最優先事項で考えてきた。市民の声は切実であり、特に子育て世代の家計を直撃している。印西市は住みよさランキング 7 年連続 1 位を取るなど、好感を得る一方で、市民からは、住みよい街ではあるが、北総線の運賃は高いと言われている。市民にとって早くて便利で快適な通勤・通学ができる鉄道が身近にあるのは喜ばしいことであるが、運賃が高いということで、真の利便性確保にはつながっていないのが現状である。

貴社、沿線市、県等で結成されている北総線沿線地域活性化協議会を通じて、沿線の活性化に努めていく。ぜひ市民の声を聞いてください。さらなる利便性の発展のため、北総線の運賃は高いという声を少しでも減らせるよう、運賃の値下げと定期券の割引、印西牧の原駅から都心への速達性の確保を実現してくれるよう要望する。

白井市・笠井市長

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けている中、不特定多数の方が利用するという、鉄道輸送として避けられない感染のリスクに直面しながらも、日々、鉄道輸送の安全・安心という重大な責務を果たし、市民の移動を支えていただいているということに対して、社長をはじめ、社員の皆さまに感謝申し上げます。

経営面では、今期は 1 年間を通して、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、厳しい環境にある中、減収、減益にはなったものの、営業利益や当期純利益が確保されたことは、経営努力のたまものであると評価している。

しかし、首都圏の大手鉄道の決算状況を見ると、軒並み営業赤字となっており、本来では、営業利益はでないものではないかと考えている。貴社において営業利益が確保されたということは、営業努力とともに運賃が高いことによるものであり、運賃を下げる余力があるという見方も可能と考えている。

市では、今後の人口減少や少子高齢化を見据え、子育て世代が市に移住して子育てがしやすいよう、また、白井・西白井駅などの市の拠点で賑わいづくりができるような様々な取り組みを進めている。今年 3 月には、貴社と市の間に、白井・西白井両駅周辺の活性化に係る協定を締結し、その第 1 歩として 7 月から両駅の副駅名を募集することを予定しており、沿線の活性化や旅客数の増加につながると考えている。

市ではこのように貴社と連携した取り組みを行っているが、一番のネックは高運賃である。市の住民意識調査でも、北総鉄道の運賃については、毎回満足度が低い。今後、人口減少が進み、地域間での競争が激しくなることが見込まれる中で、高運賃は市にとっても死活問題である。長年の市や市民の切なる願いである運賃の値下げ、その中でも通学定期の大幅な値下げについては、ぜひとも進めていただきたく強く要望する。

市としても、要望するだけでなく、沿線の活性化などに向けて、貴社や沿線市、県と一丸となり、取り組みを進めていきたいと考えている。

北総鉄道

頂戴した2点のご意見・ご要望について一括で回答する。

両市長においては、新型コロナウイルスの影響下でも、安心・安全の鉄道運行を継続したこと、当期純利益を確保したこと、有利子負債や累積損失が着実に減少したことなど、当社の事業運営を評価いただけたことをありがたく思う。白井市においては当社との活性化協定締結による副駅名の募集、印西市においては、印西牧の原駅周辺を中心とする住宅開発や沿線への企業立地など、両市長のリーダーシップのもと、沿線開発が着実に進んでいることに感謝申し上げる。

それでは、両市長から強く要望のあった運賃の問題について回答する。北総線の運賃問題については当社の積年の問題である。特に通学定期については、値下げ要望を強くいただいている。当社としてはまず財務体質の改善が最優先課題と考え累積損失解消を目指して、事業運営に取り組んできた。関係者からの経営支援や活性化協議会により、財務体質は着実に改善し、累積損失は2022年中には解消の見込みとなった。しかし、累積損失解消後は、沿線人口の減少や新型コロナウイルスによる新しい生活様式が浸透することによる都心への通勤需要の先行きが不安視される。このような状況に対して、時機を逸することなく、沿線自治体等との連携を強化して、沿線の維持発展を図っていくことが大切である。これらの認識を踏まえ、当社はポストコロナに対応しつつ、累積損失解消の2022年度を見据え、運賃値下げの可能性について、検討に着手することとする。人口減少や新しい生活様式により厳しい経営状況が予想される中、将来にわたって安定した事業運営が可能となるよう、関係者には現行の支援体制の維持をお願いするとともに、沿線開発などによる事業環境の整備に向け、一層のご支援をしていただくようお願いしたい。

今後とも両市長の発言にあった要望をふまえ、当社では運賃値下げの可能性や利便性の高いダイヤ設定等検討していくとともに、沿線自治体及び北総線沿線地域活性化協議会での活動を通じ、沿線発展のため、努力していく覚悟である。

5 議案採決

第1号議案 取締役7名選任の件

⇒ 異議なく承認可決

第2号議案 監査役2名選任の件

⇒ 異議なく承認可決

第3号議案 退任取締役及び退任監査役に退職慰労金贈呈の件

⇒ 異議なく承認可決

(以上)